

原子力災害にそなえて（リーフレット）素案意見への追加対応状況

1 内容の追加・修正に関すること

	意見	対応状況
1	<p>【避難に備えて準備しておくものリスト】 文章と□覧内の記載に相違がある (文章) マスクや帽子、カッパがあると 放射性物質を吸い込んだり (□覧内) レインコート、帽子</p>	<p><u>レインコートに統一しました。</u></p>
2	<p>【事故が発生したら】 情報に従い落ち着いて行動してください。 ⇒情報に注意して、落ち着いて行動してください。</p>	<p><u>意見のとおり訂正しました。</u></p>
3	<p>【事故の進展に応じて避難等の指示が出されます】 タイトル変更 ⇒事故の推移に応じて避難等の指示が出されます</p>	<p><u>原子力災害対策指針の記載を踏まえ、「事故の進展」を「事態の進展」に訂正しました。</u></p>
4	<p>「福島第一原発」及び「福島第二原発」の略称使用について 正式名称は、「東京電力ホールディング株式会社福島第一原子力発電所」及び「東京電力ホールディング株式会社福島第二原子力発電所」であり、略称の明記がない。</p>	<p><u>意見のとおり訂正しました。</u></p>
5	<p>P A Z 及び U P Z と同様に O I L についても、略語・用語の記載が必要ではないか。 また、E A L (原子力発電所の状況に応じた判断) の表記が無いが、明記された方が理解されるのではないか。 O I L : Operational Intervention Level 環境放射線モニタリング結果に基づき、防護措置を迅速に実行できるように、防護措置の実施を判断する空間線量率等の計測可能な値で表される基準。 E A L : Emergency Action Level 原子力発電所の状況に応じて、緊急事態を3つに区分し、各区分における主な事象と避難等の防護措置の枠組み(各区分における避難対象や避難準備などの行動)を定める緊急時における基準。</p>	<p>スペースの関係もありますが、できるだけ対応します。</p>
6	<p>各町村の避難先、避難ルート又はルートの取得方法、リーフレット内の「普段から確認しておくこと」に、「□スクリーニング場の場所」を追加する。</p>	<p><u>「避難等の指示が出されたら」にスクリーニングの記載を追加しました。</u></p>

	意見	対応状況
7	「避難に備えて準備しておくものリスト」の最後の一文で、避難は原則、自家用車と記載されているが、福島県原子力災害広域避難計画においては「あらゆる手段を活用する」と記載されているので、「原則」は削除した方がよい。	広域避難計画において自家用車避難を原則としていることから原案のとおりとさせていただきます。
8	情報入手できるwebサイトについて、すぐにアクセスが出来るようにQRコードを貼り付けではどうか。	<u>QRコードを貼り付けます。</u>
9	PAZ、UPZの区域を明確に図示すべき。	PAZについて、意見を踏まえ対応を検討します。 なお、UPZは13市町村全域であるため、明確に図示しています。
10	「対象区域」図中の30km圏はUPZと関係があるのか？もしあるならば関係を明記した方がよい。	本県のUPZと直接関係ありませんが、原子力災害対策指針では重点区域の範囲を発電所から概ね30kmとしていることから、参考に図示しています。
11	段階的に避難を行うことについて、もっと分かりやすく強調した書き方をしてはどうか。 またUPZは、原発事故発生後の福島市で最も高く計測された水準以上の放射線量が一定の時間続いたエリアは、一時移転や避難することがありますが、そうでなければ、その場で屋内退避することをもっと分かりやすく伝えた方がよい。	<u>「段階的避難の実施」に次の記載を追加しました。</u> <u>放射性物質が放出されていない場合または基準値を超える空間線量率が計測されない場合は避難（一時移転）の必要がないため、行政からの指示に従って屋内退避を継続してください。</u>
12	段階的避難によって、「渋滞が緩和される」「避難の時間が短くなる」ということだけではなく、そのことによって、結果として被ばくが避けられる可能性があること（急いで逃げて放射線にさらされる時間が長くなるよりは、建物に退避することによって被ばくが小さくなる可能性があること）などを書いてはどうか。	<u>「段階的避難の実施」に次の記載を追加しました。</u> <u>また、屋内に退避することで、放出された放射性物質が通過する際の被ばく、放射性物質の体内への取り込みを低減できることから、指示によらず避難するよりも、結果として被ばく量も低減できる可能性があります。</u>
13	屋内退避に備えた物資の備蓄が重要であることに触れてはどうか。	<u>「避難に備えて準備しておくものリスト」に次の記載を追加しました。</u> <u>避難する必要がある場合であっても、屋内退避の指示があり、これが数日間継続することがあるため、屋内退避に備えた飲料水や非常食の備蓄も重要です。</u>

	意見	対応状況
1 4	屋内退避が継続した場合の生活の維持に関する住民の不安に対して何らかの説明を書いているかどうか。(協定等により物資の支援があること、県市町村も努力することなど)	「避難に備えて準備しておくもののリスト」に次の記載を追加しました。 このほか、県では災害時応援協定等により自治体間や民間事業者等と連携して必要な物資を調達することとしています。

2 全体の構成に関すること

	意見	対応状況
1 5	このリーフレットはどのような使い方をするか。 (平時のPR用or非常時の持参資料) 使われ方を明らかにして、より使いやすい構成にすべき。	原子力災害が発生した場合に、どのように行動すればよいか、また、避難に備えて準備しておくことや避難に必要な情報の入手方法をまとめたものです。 分かりやすいものになるよう内容を精査いたします。
1 6	全体的に文字数が多いので、文字自体も小さく見づらい。 大きな文字で、イラスト等を利用した方が良い。	できるだけ文字を大きく見やすくし、イラストを効果的に活用するように内容を精査いたします。
1 7	避難方法が最も重要な情報だと思われるので、「避難等の指示が出されたら」の項目を大きく、分かりやすく記載すべきではないか。	記載場所を変え、可能な範囲で図を大きくしました。
1 8	「事故の進展に応じて避難等の指示が出されます」について、この情報が住民の行動を制御するものと思われる。 もっとわかりやすく、もっと目立つ位置にすべき。	記載場所を変え、可能な範囲で図を大きくしました。
1 9	自分たちがどの地域に該当し、どのタイミングでどのような方法でどこに避難するのか、その情報はどこから入手すればよいのか等について簡素化した内容で記載し、その根拠となる国の規定等詳細な部分は情報サイトに記載してはどうか。	分かりやすい情報提供ができるよう内容を精査いたします。

	意見	対応状況
20	<p>「避難等の指示が出されたら」について、屋内退避した住民がどこから来るどんな情報をきっかけに避難するべきかがわからない。</p> <p>属性毎にとるべき行動を見やすく表現すべき。予備知識を示して判断は避難住民にゆだねると、どんな対策をしても渋滞は緩和されないとと思われる。</p>	<p>分かりやすい情報提供ができるよう内容を精査いたします。</p>

3 啓発のあり方に関すること

	意見	対応状況
21	<p>「事故が発生したら」について、うわさやデマに惑わされないように呼びかけているが、同時に不用意にうわさやデマを発信しないように呼びかけるべき。(熊本地震のときも動物園から猛獣が逃走したとのデマで騒然となったとのこと。)</p>	<p><u>「事故が発生したら」に次の記載を追加しました。</u> <u>また、混乱の原因になるため、事実確認ができていない情報の発信は避けてください。</u></p>
22	<p>「屋内退避の指示が出されたら」について、住民がテレビ等の報道やインターネットから情報をとることを推奨しているが、テレビやラジオは被災地向けの情報のみを取り扱っているわけではないため、情報の取捨選択を住民にゆだねるのは厳しいのではないかと。避難対象の住民向けに指示をする何かを示すべき。</p>	<p>住民の情報収集環境は様々なので、テレビやラジオのほか、ホームページ、防災行政無線、広報車等を活用し、情報発信の主体を明らかにしたうえで住民向けの広報を継続的に実施することとしています。</p> <p>また、情報提供の具体的な手段についてもあらかじめ住民に周知するよう努めます。</p>
23	<p>今回の素案は県の立場で作られたものであることから、各市町村が各地域の事情を反映したリーフレットを作り、それを使いながら、原子力災害時の対応のあり方や背景にある考え方などを、住民の皆さんに直接伝えていく必要がある。</p> <p>住民と自治体の間で認識が共有され、避難のあり方や考え方に対する納得が得られなければ、段階的避難がうまくいかず、渋滞や混乱が起こる可能性が高まる。</p>	<p>今後も各市町村の状況を踏まえ、対応を協議しながら県としても必要な支援を行っていききたい。</p> <p>※国の交付金を活用した市町村でのパンフレット等作成経費の補助制度あり。</p>

	意見	対応状況
24	<p>事態やリスクを過小にとらえるべきではないが、現時点で想定できる範囲内で、廃炉が進められている1Fと稼働する見込みがない2Fの現状とリスクについて、住民に率直かつ丁寧に説明する必要がある。</p> <p>現状とリスクに見合った相場観を持って頂かなければ、誤解などによって必要を超えた行動や心理が生まれる可能性がある。</p>	<p>県HPや広報誌等の各種広報媒体を通じて県民に発電所の現況を理解していただく等、引き続き住民への分かりやすい情報提供に努めてまいります。</p>
25	<p>地道な説明、取り組みなどによって、1Fや2Fのこと（現状やリスクなど）、原子力防災に関する考え方などを住民に伝えていく必要がある。</p>	<p>引き続き、原子力防災訓練の実施や県の広報等を活用して原子力防災に関する考え方など周知していきます。</p>